

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

平成 25 年 2 月 20 日 午後用

第 64 回 獣 医 師 国 家 試 験 実 地 試 験 問 題 (D)

注 意 事 項

1. 試験問題は、60 問であり、解答時間は 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを一つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1 問につき二つ以上解答した場合には、そのうちの 하나가正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 日本国で獣医師国家試験事務を受け持っている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうち E 3 ☑を横線で、
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案の作成に当たっては、必ず HB の鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……   

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡が残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないので注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

課題1 次の文を読み、問1、問2に答えよ。

〔図1〕は心疾患のある犬で大腿動脈から大動脈弓までカテーテルを挿入して行った血管造影像である。

別冊D

図1

問1 矢印で示す部位として適当なのはどれか。

1. 上行大動脈
2. 右心房
3. 左心房
4. 肺動脈
5. 後大静脈

問2 本心疾患で病態が進行したときに起こりうる変化として適当でないのはどれか。

1. 肺動脈壁の肥厚
2. 僧帽弁逆流
3. 肺高血圧
4. 左心室拡大
5. 右心房虚脱

課題 2 次の文を読み、問 3、問 4 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、雄、3歳齢。頸部の腫脹を主訴に来院。腫脹部の触診では波動感があり、内容物を吸引したところ、粘稠性の高い透明な液体が採取された。〔図 2〕は症例の手術時の外観である。

別冊 D

図 2

問 3 本症例で最も疑われる疾患に関する記述として適当なのはどれか。

- a 同様の疾患が咽頭、舌下、頬骨下にも生じることがある。
- b 唾液腺もしくは唾液管から唾液が漏出し貯留している。
- c 液体を含む領域は内面が上皮で内張りされている。
- d 唾液腺の中に唾液を含む嚢胞が形成されている。
- e 大部分の症例は唾液腺の細菌感染が原因で生じる。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問 4 本症例に対する外科的治療法として適切なのはどれか。

- 1. 破損した唾液管を吻合する。
- 2. 唾液腺内の嚢胞を摘出する。
- 3. 罹患側の下顎腺と舌下腺を摘出する。
- 4. 罹患側の耳下腺を摘出する。
- 5. 液体貯留部分を切開しドレインを留置する。

課題 3 次の文を読み、問 5、問 6 に答えよ。

150 日齢の豚が出血性下痢を呈し急死した。〔図 3 - A 〕は剖検時の腸の肉眼像、〔図 3 - B 〕は回腸粘膜陰窩の Warthin-Starry 染色（鍍銀染色）組織像である。

別冊 D
図 3 - A, B

問 5 最も疑われる疾患はどれか。

1. 豚赤痢
2. 腸腺腫症候群（増殖性腸炎）
3. 豚のサルモネラ症
4. 大腸菌症
5. 豚の抗酸菌症

問 6 本疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. ボタン状潰瘍がみられる。
2. 哺乳豚でもしばしば認められる。
3. 腸管粘膜上皮細胞の過形成がみられる。
4. 菌分離には 5% 羊血液寒天培地を使用する。
5. 粘液を伴った鮮血便が特徴的である。

課題 4 次の文を読み、問 7、問 8 に答えよ。

犬、シー・ズー、避妊雌、11 歳齢。1 ヶ月前より多飲・多尿がみられるようになった。1 週間前より元気・食欲が低下し、昨日から口が開いたまま閉じなくなったという主訴で来院〔図 4-A〕。〔図 4-B〕は同日の頭頸部 X 線像である。

別冊 D
図 4-A, B

問 7 最も疑われる疾患はどれか。

1. 顎関節症
2. 咀嚼筋炎
3. 三叉神経麻痺
4. 副腎皮質機能亢進症
5. 二次性上皮小体機能亢進症

問 8 予想される血液検査上の異常所見はどれか。

- a 高血糖
- b 高コレステロール血症
- c 高窒素血症
- d 高リン血症
- e クレアチンキナーゼの高値

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題 5 次の文を読み、問 9、問10 に答えよ。

下痢症の患者便から〔図 5〕の矢印に示す原虫が検出された。また、原因と推定された飲料水からも同様の原虫が検出された。

別冊 D

図 5

問 9 検出された原虫とその発育ステージとの組合せはどれか。

- | 原虫 | 発育ステージ |
|---------------|---------------|
| 1. ランブル鞭毛虫 | シスト |
| 2. ランブル鞭毛虫 | トロフォゾイト (栄養型) |
| 3. クリプトスポリジウム | スポロゾイト |
| 4. クリプトスポリジウム | メロゾイト |
| 5. クリプトスポリジウム | オーシスト |

問10 本疾患に関する記述として適切なものはどれか。

- a 日本では水道水を原因とする集団感染事例は報告されていない。
- b 水道水 (上水) を塩素で消毒するのは有効である。
- c 家畜伝染病予防法では届出伝染病 (牛) に指定されている。
- d 感染症法では五類感染症に指定されている。
- e 水道水 (上水) のほかプール水も感染源となりうる。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題 6 次の文を読み、問 11、問 12 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、雌、3 歳齢。以前から物にぶつかることがあり、最近では散歩に行きたがらなくなったとの主訴で来院。〔図 6 - A〕は初診時の眼科検査結果、〔図 6 - B〕は眼底像である。後日行った頭部 MRI 検査では異常所見は認められなかった。

<p>別冊 D 図 6 - A, B</p>

問11 最も疑われる疾患はどれか。

1. 白内障
2. 緑内障
3. 水晶体脱臼
4. 網膜剥離
5. 進行性網膜萎縮症

問12 本症例で最も疑われる疾患に対する対処法として最も適切なのはどれか。

1. 水晶体摘出術
2. 抗生物質の点眼治療
3. コルチコステロイドの全身投与
4. 有効な治療方法はなく飼育環境の安全に努める。
5. 食餌療法

課題7 次の文を読み、問13、問14に答えよ。

〔図7〕は死亡した牛の肺の病理組織像（HE染色）である。

別冊D 図7

問13 組織所見として適当でないのはどれか。

1. 肺胞壁の石灰沈着
2. 肺胞腔への漿液滲出
3. 肺胞壁の肥厚
4. 肺胞腔への線維素析出
5. 肺胞壁の尿酸塩沈着

問14 本病変の診断名として最も適当なのはどれか。

1. 誤嚥性肺炎
2. 肉芽腫性肺炎
3. 尿毒症性肺炎
4. 類脂質肺炎
5. 肺胞タンパク症

課題 8 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。

犬、ウェルシュ・コーギー・ペンブローク、雌、5歳齢。交通事故による外傷後の跛行を主訴に来院。〔図 8-A, B〕は、それぞれ腰臀部 X線腹背像と側方像である。

別冊 D
図 8-A, B

問15 この X線像の所見として適切なのはどれか。

- a 仙腸関節離断
- b 寛骨臼骨折
- c 坐骨骨折
- d 第 7 腰椎と仙骨の亜脱臼
- e 尾骨骨折

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問16 本症例に対して跛行改善を目的に行う外科的処置として最も適当なのはどれか。

- 1. 仙腸関節の整復固定
- 2. 寛骨臼骨折の整復固定
- 3. 坐骨骨折の整復固定
- 4. 第 7 腰椎と仙骨の整復固定
- 5. 断尾術

課題9 次の文を読み、問17、問18に答えよ。

犬、雑種、5歳齢。3日前からの食欲不振と元気消失、ならびに尿の色が濃くなったとの主訴で来院。身体検査で可視粘膜はやや蒼白で軽度の黄疸と脾腫が認められた。〔図9〕は本症例の血液塗抹標本顕微鏡像（ライトギムザ染色）である。

別冊D

図9

問17 赤血球に感染している病原体として最も疑われるのはどれか。

1. *Babesia canis*
2. *Babesia ovata*
3. *Babesia gibsoni*
4. *Babesia bovis*
5. *Babesia bigemina*

問18 本疾患の治療に用いられる薬剤として最も適当なのはどれか。

- a アンピシリン
- b クリンダマイシン
- c ジミナゼン
- d イベルメクチン
- e プラジクアンテル

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題10 次の文を読み、問19、問20に答えよ。

牛、黒毛和種、雌、2歳齢。2ヵ月前より食欲が減少していたが、ここ1週間で排尿は少量頻回となり急激に消瘦したと診察依頼があった。〔図10-A〕は診察時の血液検査結果、また〔図10-B〕は右臍部からの超音波検査像である。

別冊 D 図 10 - A, B

問19 血液検査結果の解釈として正しいのはどれか。

1. 大球性貧血
2. 白血球増多症
3. 低アルブミン血症
4. 低カルシウム血症
5. 高窒素血症

問20 最も疑われる疾患はどれか。

1. 慢性膀胱炎
2. 脂肪壊死症
3. 牛白血病
4. 水腎症
5. 腎盂腎炎

課題11 次の文を読み、問21、問22に答えよ。

犬、ビーグル、避妊雌、3歳齢、体重14kg。突然、右後肢を挙上し、着地しなくなったとの主訴で来院。〔図11〕は初診時における患肢のX線側方像である。

別冊 D

図 11

問21 このX線像の所見として最も適切なのはどれか。

1. 膝蓋骨内方脱臼
2. 大腿骨遠位の骨膜反応
3. 関節鼠
4. 十字靭帯付着部の剥離骨折
5. 胫骨の前方変位

問22 本症で疑われる疾患に関する記述として最も適切なのはどれか。

- a 疼痛緩和のために関節固定が推奨される。
- b 将来的に対側肢も同一疾患を発症する可能性がある。
- c 半月板損傷を合併・続発しやすい。
- d 重症例では大腿骨骨切矯正が必要なことがある。
- e 関節鏡下で遊離物を除去できれば予後は良好である。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題12 次の文を読み、問23、問24に答えよ。

〔図12〕は乳牛のルーメン内における窒素化合物の代謝図である。通常、タンパク質は分解されて〔a〕になり、一部は肝臓に運ばれて〔b〕に変換される。

別冊 D 図 12

問23 〔a〕、〔b〕にあてはまる組合せとして正しいのはどれか。

- | a | b |
|----------|-------|
| 1. ケトン体 | 乳酸 |
| 2. アンモニア | 尿素 |
| 3. 尿素 | アンモニア |
| 4. 尿酸 | アンモニア |
| 5. 乳酸 | ケトン体 |

問24 血中の〔a〕の濃度が上昇して起こる中毒の主たる症状として誤っているのはどれか。

1. 不安
2. 過剰流涎
3. 頻尿
4. 心拍数減少
5. 強直性痙攣

課題13 次の文を読み、問25、問26に答えよ。

馬が盛んに尾を振ったり四肢を蹴り上げていたので、皮膚を観察したところ〔図13〕の昆虫がとまって吸血をしていた。

別冊 D

図 13

問25 この昆虫が媒介する寄生虫はどれか。

1. 頸部糸状虫 (*Onchocerca cervicalis*)
2. ハエ馬胃虫 (*Habronema muscae*)
3. ロデシア眼虫 (*Thelazia rhodesi*)
4. エバンス・トリパノソーマ (*Trypanosoma evansi*)
5. ヘパトゾーン (*Hepatozoon* sp.)

問26 この寄生虫感染の治療薬として最も適当なのはどれか。

1. メトロニダゾール
2. イベルメクチン
3. ジミナゼン
4. ジエチルカルバマジン
5. スルファモノメトキシシ

課題14 次の文を読み、問27、問28に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、雌、10歳齢。食欲廃絶と虚脱を主訴に来院。〔図14-A〕は初診時の腹部単純X線像である（以前に用いたバリウム造影剤が残っている）。また、〔図14-B〕はその後に行った胃壁の針吸引塗抹像（ギムザ染色）である。

別冊 D
図 14-A, B

問27 〔図14-A〕で腹腔内臓器のコントラストが明瞭となっている。この原因として最も適当なのはどれか。

1. 腹腔内脂肪の沈着
2. 皮下脂肪の沈着
3. 腹水の貯留
4. 極度の消瘦
5. 腹腔内遊離ガス

問28 本症例の診断として最も適当なのはどれか。

1. リンパ腫
2. 胃潰瘍
3. 腺癌
4. 肥満細胞腫
5. 平滑筋肉腫

課題15 次の文を読み、問29、問30に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、11歳齢。食欲不振のために往診を依頼された。〔図15〕は血液検査結果である。

別冊 D

図 15

問29 血液検査結果の解釈として最も適切なのはどれか。

- a 高ビリルビン血症
- b 重度の貧血
- c A / G 比の低下
- d 血小板減少症
- e GGT 活性の高値

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問30 診断のために次に実施すべき検査として最も適切なのはどれか。

- 1. 肝胆道系の超音波検査
- 2. 血液再生像の有無の確認
- 3. 心臓超音波検査
- 4. 血液凝固系検査
- 5. 対光反射検査

課題16 次の文を読み、問31、問32に答えよ。

発育不良と下痢を示す初生雛の糞便から、DHL 寒天培地でサルモネラ属菌が分離された〔図 16〕。

別冊 D

図 16

問31 最も疑われる本菌の血清型はどれか。

1. Enteritidis
2. Infantis
3. Gallinarum
4. Typhi
5. Typhimurium

問32 この感染症名とその分類の組合せとして正しいのはどれか。

1. ひな白痢 ————— 法定伝染病
2. 鶏パラチフス ————— 海外悪性伝染病
3. 鶏パラチフス ————— 届出伝染病
4. ひな白痢 ————— 届出伝染病
5. 鶏パラチフス ————— 法定伝染病

課題17 次の文を読み、問33、問34に答えよ。

犬、ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア、雄、6ヵ月齢。約1ヵ月前から、顔を触れると痛がるとの主訴で来院。それ以外の症状は無く、元気、食欲、排便、排尿に問題は無いとのことであった。〔図17〕は初診時の頭部X線側方像である。

別冊D

図17

問33 最も疑われる疾患はどれか。

1. 頭蓋下顎骨症
2. 汎骨炎
3. 骨肉腫
4. 二次性上皮小体機能亢進症
5. 骨髄炎

問34 本症で疑われる疾患に関する記述として最も適切なのはどれか。

1. 抗生物質の全身投与が適応であるが、通常予後不良である。
2. 免疫抑制療法が適応であり、通常予後は良好である。
3. 全身性化学療法が適応であるが、通常予後不良である。
4. 成長後、病変が自然に退縮することがある。
5. 下顎骨切除の適応であるが、通常予後不良である。

課題18 次の文を読み、問35、問36に答えよ。

養殖アマゴの体側に膨隆患部が形成された〔図18-A〕。一部の魚では患部の皮膚が崩壊、潰瘍化していた。患部の塗抹標本には多数の非運動性グラム陰性短桿菌が観察された。〔図18-B〕はTS寒天培地による菌分離像である。

別冊 D
図 18 - A, B

問35 最も疑われる疾患はどれか。

1. 連鎖球菌症
2. せつそう病
3. イクチオホヌス症
4. 細菌性腎臓病 (BKD)
5. 細菌性冷水病

問36 同定された細菌はどれか。

1. *Streptococcus iniae*
2. *Lactococcus garvieae*
3. *Aeromonas salmonicida*
4. *Flavobacterium psychrophilum*
5. *Renibacterium salmoninarum*

課題19 次の文を読み、問37、問38に答えよ。

〔図19-A〕は数ヵ月間発情が認められなかった牛、ホルスタイン種、7歳齢の卵巢の肉眼所見、〔図19-B〕は同病理組織像（HE染色）である。

別冊 D
図 19 - A, B

問37 最も疑われる疾患はどれか。

1. 卵胞嚢腫
2. 黄体嚢腫
3. 顆粒膜細胞腫
4. 嚢腺腫
5. 血管腫

問38 本疾患に関する記述として適切でないのはどれか。

1. ステロイドホルモン分泌異常を伴うことが多い。
2. 通常両側性である。
3. 石灰化や液体貯留を伴うことが多い。
4. 腹腔内で沈下するので直腸検査での触知が困難である。
5. 雄性化がみられる場合がある。

課題20 次の文を読み、問39、問40に答えよ。

犬、パピヨン、雌、5歳齢。慢性的な左前肢跛行を主訴に来院。以前から手根関節の過伸展が認められていたが、最近、右前肢にも同様の変化が生じてきたとのこと、また時々活動性が低下するようになったとのことであった。なお、初診時の体温は40.3℃であった。

別冊 D

図 20

問39 [図 20] は前肢のX線像である。画像所見として適当なのはどれか。

- a 指関節の骨びらん
- b 手根関節の変形
- c 手根骨の骨折
- d 指骨の骨折
- e 手根関節の骨増生

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問40 この疾患に対する治療薬として適当なのはどれか。

- a 免疫抑制薬
- b コルチコステロイド
- c 利尿薬
- d 抗真菌薬
- e 抗生物質

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題21 次の文を読み、問41、問42に答えよ。

3～4ヵ月齢の肥育豚が散発的に急死した。〔図21-A〕は死亡豚の心嚢部の病変である。肺は胸壁と線維素性に癒着していた。NAD添加チョコレート寒天培地を用いたところ〔図21-B〕のような菌が分離された。

別冊 D
図 21 - A, B

問41 最も疑われる疾患はどれか。

1. 豚丹毒
2. 連鎖球菌症
3. パスツレラ症
4. グレーサー病
5. 豚マイコプラズマ肺炎

問42 本疾患の予防または治療法として最も適切なのはどれか。

- a 遺伝子検査により感染動物を摘発淘汰する。
- b 治療にはペニシリン系抗生物質の大量注射が有効である。
- c 予防は豚へのストレスを軽減させ、異常豚の早期発見、早期治療を徹底する。
- d ハエやアブなどの衛生昆虫の駆除を行う。
- e 口腔の損傷を避けるために粗剛な茎類の給餌を控える。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題22 次の文を読み、問43、問44に答えよ。

犬、ビーグル、雌、5歳齢。〔図22〕は症例の外貌を示している。3ヵ月前より次第に活動性が低下してきたとの主訴で来院。食欲に変化はなく、体重は増加してきたとのことである。体温は36.8℃、心拍数は56回/分であり、身体検査では皮膚の肥厚や姿勢反応のわずかな低下が認められた。

別冊 D

図 22

問43 最も疑われる疾患はどれか。

1. 頸部椎間板ヘルニア
2. 壊死性脈管炎（髄膜脈管炎）
3. 関節リウマチ
4. 甲状腺機能低下症
5. 副腎皮質機能亢進症

問44 予想される血液検査上の変化はどれか。

1. 白血球増多
2. 高コレステロール血症
3. クレアチンキナーゼの高値
4. C反応性タンパクの高値
5. リウマチ因子陽性

課題23 次の文を読み、問45、問46に答えよ。

競走用馬、サラブレッド種、4歳齢。調教運動中、突然走行スピードが遅くなり、息遣いがあらかなくなったとのことで診療依頼があった。〔図23〕は馬房内での安静時心電図である。

別冊 D 図 23

問45 心電図の所見として正しいのはどれか。

- a f波の出現
- b QRS 間隔の延長
- c S波の高電位
- d T波の低電位
- e P波の消失

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問46 治療薬として適当なのはどれか。

- 1. ニトログリセリン
- 2. イソプロテレノール
- 3. アトロピン
- 4. キニジン
- 5. メデトミジン

課題24 次の文を読み、問47、問48に答えよ。

猫、雑種、避妊雌、13歳齢。現在明らかな症状はないが健康診断時の胸部 X 線検査で〔図 24 - A, B〕（A：側方像、B：腹背像）に示す像が得られた。また身体検査の胸部聴診で心音がやや聞き取りにくかった。

別冊 D
図 24 - A, B

問47 最も疑われる疾患はどれか。

1. 拡張型心筋症
2. 肺腫瘍
3. 横隔膜ヘルニア
4. 心嚢水貯留
5. 腹膜心膜横隔膜ヘルニア

問48 現段階での対応として最も推奨されるのはどれか。

1. 肺葉切除術
2. 心膜穿刺
3. 開胸による横隔膜の修復術
4. 経過観察
5. 利尿薬ならびに ACE 阻害薬の投与

課題25 次の文を読み、問49、問50に答えよ。

犬、雑種、未去勢雄、8歳齢。活動性の低下と呼吸促迫、可視粘膜蒼白を主訴に来院。身体検査で陰嚢内に左精巣しか触診できなかった。〔図25-A〕は初診時の血液検査結果、〔図25-B〕は開腹時の肉眼像である。

別冊 D
図 25 - A, B

問49 本症例の血液検査の異常値の原因となるホルモンとして最も疑われるのはどれか。

1. アンドロジェン
2. プロジェステロン
3. エストロジェン
4. テストステロン
5. エリスロポエチン

問50 本症例で予想される骨髄像として最も適当なのはどれか。

1. 骨髄細胞の顕著な異形成
2. 骨髄低形成から無形成
3. 重度の骨髄線維化
4. 骨髄球系細胞数の顕著な増加
5. 骨髄はほぼ正形成

課題26 次の文を読み、問51、問52に答えよ。

〔図 26 - A〕はある人獣共通感染症の病原体の電子顕微鏡像、〔図 26 - B〕はその流行地域を示している。

別冊 D
図 26 - A, B

問51 この病原体の自然宿主はどれか。

1. オオコウモリ
2. ミドリザル
3. アフリカヤマネ
4. マストミス
5. スローロリス

問52 この人獣共通感染症に関する記述として適当なのはどれか。

- a 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で一類感染症に分類される。
- b 近縁のウイルスが南米で出血熱の病原体として分離される。
- c 後遺症として聴覚障害が必ず認められる。
- d 病原体はフィロウイルス科に属する。
- e 人から人への感染は認められない。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題27 次の文を読み、問53、問54に答えよ。

犬、ミニチュア・シュナウザー、雌、9歳齢。1週間前からの元気・食欲の低下と嘔吐を主訴に来院。本症例は以前にも数回同様の症状を示しているが、そのときは保存療法により2～3日で回復したとのことであった。初診時、体温38.6℃、身体検査で右上腹部に圧痛を認めた。血液検査で貧血や白血球数の異常は認められなかったが、血液化学検査ではAST 223 U/l、ALT > 1,000 U/l、ALP 2,500 U/l、GGT 92 U/l、T-bil 1.2 mg/dlであった。〔図27-A〕は肝臓領域の超音波画像（横断面）、〔図27-B〕は同縦断面である。

別冊 D
図 27 - A, B

問53 最も疑われる疾患はどれか。

1. 胆嚢癌
2. 胆嚢粘液嚢腫
3. 胆石症
4. 肝細胞癌
5. 肝膿瘍

問54 本症例に対する治療法として最も適当なのはどれか。

1. 胆嚢摘出術
2. 利胆剤の投与
3. 肝疾患用フードによる食餌療法
4. 胆嚢切開術
5. 肝葉切除術

課題28 次の文を読み、問55、問56に答えよ。

大規模養豚場で哺乳豚 20 頭が消瘦し嘔吐と水様性下痢が認められ、翌日残りの全哺乳豚 742 頭が発症し、8 頭が死亡した。〔図 28〕は死亡豚の剖検像である。

別冊 D

図 28

問55 最も疑われる疾患はどれか。

1. 豚赤痢
2. 豚丹毒
3. 伝染性胃腸炎
4. 豚コレラ
5. 腸腺腫症候群（増殖性腸炎）

問56 本疾患に対する措置として適切なのはどれか。

- a 防疫活動を行う人への感染防止
- b 都道府県知事への届け出
- c 発症豚の接触防止とオールイン・オールアウト方式による飼育環境の改善
- d 媒介昆虫の駆除
- e 飼料給与の適正化

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

課題29 次の文を読み、問57、問58に答えよ。

〔図 29〕を摂食したことで麻痺を主徴とする食中毒が発生した。

別冊 D

図 29

問57 この食中毒の原因となった可能性のある有毒成分はどれか。

1. サキシトキシン
2. オカダ酸
3. テトロドトキシン
4. シガトキシン
5. バトラコトキシン

問58 この有毒成分に関する記述として正しいのはどれか。

- a 貝の体内で生合成される。
- b 中腸腺に蓄積する。
- c 神経細胞の Na^+ チャネルを阻害する。
- d 加熱調理によって無毒化する。
- e 脂溶性である。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題30 次の文を読み、問59、問60に答えよ。

犬、雑種、去勢雄、11歳齢。口腔内の腫瘍を主訴に来院。〔図30-A〕は口腔内の腫瘍の外観、〔図30-B〕は頭部造影CT横断像、〔図30-C〕は腫瘍のコア生検病理組織像（HE染色）である。

別冊 D
図 30 - A, B, C

問59 本症例の診断として最も適当なのはどれか。

1. 悪性黒色腫
2. 線維肉腫
3. 扁平上皮癌
4. リンパ腫
5. 棘細胞腫性エナメル上皮腫

問60 この腫瘍に関する記述として適当なのはどれか。

1. 犬猫ともに口腔内腫瘍の中で最も発生率が高い。
2. 口腔内の発生部位、大きさ、骨浸潤の有無は予後と関係する。
3. 組織学的には良性だが骨浸潤を伴うことが多い。
4. 肺転移が生じやすいが所属リンパ節への転移はまれである。
5. 化学療法に対する感受性が高く奏効率も高い。